

本文41行

苔

佐川英三

44

わたしは  
もうかなり長く生きてたのよ  
なるべく素直でありたい  
たとえば  
過去を思い出す  
若くして死んだ男の無念さに

おのれの無念と暮らしてみる

西芳寺指東庵の

廂の下で

やわらかい春の雨と避けながら

虚心に庭をながめていた

天と目指し

迫り上っているあらゆるらしい石組

その石と石の間を

埋めつくした六百年の苔

に  
い